

第3回神戸市公園緑地審議会 計画・緑化部会
会議録

日時：2025年3月26日（水）10：00～12：00

場所：神戸市職員研修所 第3会議室

●事務局 ～出席人数の確認～

●事務局 ～議事内容について説明～

●赤澤部会長 この上位計画になる総計と都市マスの策定が今並行している。来年度は2回程度開催ということなので、今回は主に構成を審議いただき、次回以降2回程度でその中身を詰めていくというような段取りになっていくと思う。

●赤澤部会長 5ページ目の次期緑の基本計画の構成1はじめにから6の検証評価と反映ということだが、市民アクション編や、実践編みたいなことも考えられていた。1から3、もしくは4ぐらいまでを市民アクション編としようという考えで良いか。

●事務局 はい。

●赤澤部会長 目標の考え方で前回、具体的な目標を示せば市民の人も理解するというご意見もいただいている。4の目標ぐらいまでを市民編で入れ込むと、むしろ実践編の方は細かい考え方はもう分かっていることとして4の目標から具体的な施策や検証評価の反映といった後半を集約していくというイメージで良いか。

●事務局 はい。市民アクション編については序盤のものとしてはじめにから計画基本理念などについて述べながら、こういうことをしますというよりは、こういうことに参画してみようと思うような表現で作りたいと思っている。後半の政策等については細かい部分になってくるので実践編として細かく記載していきたいと思っている。

●赤澤部会長 最初の始めにから目標ぐらいまでを市民アクション編とすると、例えば、こんなことをしましょう。ということを示すかというところが論点にもなるかもしれない。スパイラルアップの図で例示をされるぐらいのことを考えて、してください感が出ないようなニュアンスだと私は理解している。

●馬場委員 3ページの取り入れる視点で、個別政策で反映されているということで結構大事だと思った。集中豪雨などに対する雨水貯留も大事だと思う。気候変動により夏場は暑すぎて過ごしやすい季節が少なくなっている。もう少し幅広い視点は入れることはないのか。

●赤澤部会長 いろんな効果があるんですよと言うだけだと、いろんな効果があり過ぎてよくわからなく

なるのでこういった整理をしながら説明するというのがまず土台に来る。その上で課題としてわかりやすい表現があるのではないかなと思っている。ただ馬場委員が仰った防災のところは効果のところに書かれていないので、そういうのもあれば。

●馬場委員 ヒートアイランドについても大きな意味で防災や減災というのには関わってくると思う。

●赤澤部会長 これはこれから網羅的に、バランスはこれから更新していきたい。防災は本当に大事なことで。

●馬場委員 避難場所とか延焼防止っていうのも結構大事なことを書いていただいているかとは思う。

●事務局 視覚的なデザインはこれからしていきたいと思います。

●馬場委員 空間の効果の部分、山の絵も下の文字とあまりリンクしていないような、どっちかというところ環境面での話なのか多様な生き物の生息空間の方にリンクしているのか。

●天川委員 絵と言葉がちょっとミスマッチな気はする。

●馬場委員 ちょっと想像を働かす必要があると思う。

●天川委員 ここに目を止めないと中身がわからないというのは逆効果だと思う。

●事務局 市民アクション編というのはあまり興味を持っていない方に見てもらうものなのでそのあたりのデザインについてもしっかり考えていきたい。今回のご意見を参考にさせていただく。

●赤澤部会長 課題解決から課題を潰していくために市民が活動するようなイメージも捉えるという、構成としてはこういう課題は課題としてあるがそれをどうこれから理解していくのかみたいなのを真ん中に書くといいという気がした。

いい面だけをクローズアップするところがあっても結構ですし、ピンチはチャンスのことだったら六甲山の荒廃について自然と人が共生してもう少し六甲山を活用する余地がまた新たに生まれたとも捉えられる。都心部の緑不足ということは人口減少していったらもしかしたらスペースが出るかもしれない。担い手が高齢化していくということは好きな方が好きなことができるかもしれない。いろんなことが考えられる。そういう考え方の転換からこういったこともしてもいいですよといったテーマを伝えると理解しやすいのではないか。

●馬場委員 市民にこんなことが問題だということをはっきり認識してもらおうところがあってもいいと思った。

●事務局 あえて箇所を挙げますと資料5の4番になってくる。こういったところに触れながら効果を高めていくというような記載内容にしようかと思っている。本編においては第3章の部分でも同じようなこ

ういう高温常態化への対応といったようなこともしているので表現またはイラストなどの用い方についてはこれから考えていきたい。

●馬場委員 3ページ4ページの視点というのは何か違うようだが、これはどのような関係性があるのか教えていただきたい。表現が違うしどういうふうに入っていて、どこからどう来ているのかなという違いや整合をこれからするということなのか意味合いが違うのか教えていただきたい。

●事務局 部会でいただいた意見を3ページ4ページに載せている。こういったこともあるという上で構成本編には盛り込んでいくことになるかと思っているので、一つ一つの表現をどこに入れるかというのは一旦置いておいていただきたい。

●赤澤部会長 骨子案の9ページをみると課題と視点が少し混ざっているというか、どっちかという視点重視みたいな書き方。馬場委員の意見は課題をはっきりした上でそれに対応する形もしくはそれを展開する上での視点取り組みというものにしたらどうかということ。目次では課題というのが2章ではっきりと書かれているが骨子案を見ると特徴と新たな視点という風につながってきており課題だけを取り上げるところは今ない。

●馬場委員 問題課題視点やそれぞれの整理が散りばめられているが、その辺り整理してもいいのか、あるいはこういうふうな形でもあまり市民さんだとそこまで考える必要がないのか、それも整理した上でどう書くか考えてもらいたい。

●赤澤部会長 例えば本編は2の2に課題をはっきり書くところを設けて、ただそれを全部書くと市民には伝わりにくいので、市民には課題と視点が一体となっているような視点重視のところを全面に押し出して伝えるみたいな感じか。

●天川委員 骨子案の10ページに社会課題の解決に向けてがあり、それぞれの課題の解決に分かれている。これが先に来るということか。

●赤澤部会長 そういうこと。

●天川委員 馬場委員が言っているのはこれがあって視点がくるという関連性みたいなことか。

●馬場委員 そう。視点が先に来るのか課題が先に来るのか。

●天川委員 一般の市民には、課題があって視点があるほうが分かりやすいというのは分かる。ただ市民の方がここに目を止めるかというとなかなか難しい気はする。もう少し箇条書き的に課題があってそれによって視点がこうだというふうすれば、もう少し市民がとらえやすいということになるかもしれない。

●赤澤部会長 市民の素朴な疑問的な表現をしながら大きな課題というのを書くところもあるかもしれない。

●松下委員 私は市民アクション編というところに非常に注目しているが、資料4の6ページに市民の人が見るようになるきっかけとなるパンフレットと書いており、その視点で資料を読むとちょっと入門編には難しいという気がした。

観光局で神戸市の魅力を神戸市民や外の人はどう思っているのか。というグループインタビューをしたことがある。神戸にお住まいの20代から30代の女性5人に集まっていたら神戸の魅力は何ですかと聞くと全員が「自然が多い」と言っていた。東京からの人は大体おしゃれな街でパンやスイーツが美味しいとか言うが、神戸の人は、第一は自然が多いということを言われた。

先日神戸を盛り上げようと考えている民間の人たちと神戸の祭りは盛り上がらないという話になって、なぜ盛り上がらないのかとチャット GPT で調べてみたら、神戸の人が盛り上がらなくていいと思っているとのことだった。

それはすごく神戸市民の気質を表していると思って、今の神戸に満足している神戸の中の人、満足しているのをぶち壊さないといけないぐらいの破壊力がないと、この市民アクション編というのは届かないと思う。山があつて海があつて緑が多くて素敵な街って思っている人に変わらなきゃいけないということはどう伝えていくかという視点で考えるとこの入門編はもう要約版ではいけない。

今のこれを守るためにこうしないといけない、もっとこうなるためにあなたがこう動かなきゃいけないみたいなそういう強いメッセージ性を持ったもので初めてこの本編の方に目を向けようかなというふうになると思うので、もっと文字数を減らして図も本編と同じものではなくてもっと分かりやすいものにするべきと感じた。

●赤澤部会長 新保先生も環境問題のことでそういったご意見もあった。

具体的に伝えるとすればこれは本編とアクション編両方とも思いますけれども例えば一始めのところでもどうしてもこういった都市緑化みたいなイメージは六甲山の南側のところだけという感じのイメージが結構多い。賑わいと住宅のところだけでも六甲山本体もあるし、北の田園地域もニュータウンもあるというように全部含めてきちんと示す鳥瞰図みたいな分かりやすい絵があれば。そういったものも含めて全体像とこれはちゃんとやらないとダメだしちゃんとやったらすごいなといったところが必要というご意見があった。

●鳥居委員 お子さん向けとかそういったものは作らないのか。絵でもステップの最初は「知る」というのはお子さんから始まっている。これは漢字ばかりで先ほどもう少し分かりやすくというお話も出ていたが。予定はあるのか。

●事務局 今回の時点でこうしようというのはまだなかったが、お二人方からいただいたもっと分かりやすいものにすべきというご意見は私たちとしてもやらなくてはいけないところだと思うので、どうしていくべきかというのを考えながら進めていきたい。

●鳥居委員 私も防災教育をやると本当に来てほしい20、30代の人ほとんど来ない。来る人は上の人か逆に言うと小学校とか出前授業に行くとすごく関心を持ってもらえる。50年、60年、100年後というのを神戸市が意識するのであればそこから育てていくのではないかと。ぜひそういうところにもターゲットにしていだければと思う。

●赤澤部会長 こういった計画づくりで子どもの専門家の方にこういった取り組みは子どもが主語のところは一切ありませんね、結局親を見ているだけじゃないですかというふうに指摘されたことがある。子どもが本当に何が必要かというのを子どもの目線で考えるということはすごく大事。

子どもがケガしないようにルールを作って禁止事項ばかり作っているけども子どもはそこで危険なこととかやったらいけないこととか謝り方とかを学ぶための社会装置ということを忘れていないかというような。子どもって本当にこうもチャホヤされて大丈夫だよって言われることを本当に望んでいるのかというところはあって、それもひいては親も本当はそれを望んでいるはず。トラブルだけを回避したいだけでそこまでしてほしいとは思っていなかったりするというのがあったりする。そういうことを取り入れていく仕組みみたいなことは十分考えられたりとか施策の中でも一つ何かあるだけでだいぶ違ったりするかなと思う。

●天川委員 資料5の項目3にある三段重ねの図について、吹き出しが一番下にあつたらいいと思う。項目4の写真は中身と何ら意味のない写真が並んでいると私は思った。もう少し記載内容に見合った写真を配置すればいいと思う。丁寧に写真なり図柄なりで構成される方が見る方は興味を持つと思う。

それとどこにも表現は出てきませんが、ボランティアな活動についての表現がないと思う。50年100年先を見据えた基本計画の市民目線として興味を覚えて市民になるほどというふうに思う第一歩は自分たちが関わることに對しての対価だと思う。お金を払うということではなくて何か自分が神戸市の緑の計画・施策に関わっているという誇りのようなものがないと続かないと思う。

例えばヨーロッパでは煙突掃除をする人はマイスターだそうです。煙突掃除をする人がマイスターというのはすごいこと。それだけ誇りを持って仕事をする。例えばドイツから生まれたシルクハット。シルクハットは本来欧米では貴族しか扱えないということがあったそうだが、シルクハットを着て煙突掃除する。自分がやっていることに関しての対価が表れているというか、どなたがご覧になっても、例えば子どもさんがすごい仕事なのだと見て分かるほど誇りになるというような。

夢物語のように聞こえると思うが、そういうことを50年100年先に神戸市はしっかりやってるというようなことが織り込まれているような書きぶりが欲しいと思った。決して夢物語ではなく神戸が延々と六甲山に木を植えて今の緑を作ったように延々と細かいことを積み重ねていくということだと思うのでそういう視点で夢を見るということ。

それと SNS のことについて、中瀬先生がおっしゃっていましたがニューヨークのセントラルパークでは市民が SNS で役所に情報提供ができるということが多くなっているとお聞きしました。

●赤澤部会長 情報じゃないけどアドバイスとか情報提供ができる。

●天川委員 ただ単にいいね、きれいねという SNS 上アップだけではなく、きちんと行き来ができるような役割が SNS にあるという安心感。勝手に何か載せているだけというのではなくてそういうことも踏まえた情報の相互提供を含めた方がいいのではないかと思った。

●赤澤部会長 非常に重要な視点だと思う。最近よく海外でもボランティアということが使われずスチュワードシップと言っている。自分がしたい（ウィル）とか、できる（キャン）というのはだいたい長続きしない。やっても誰も見てくれないということで、マスト、ニード、やるべき、やって欲しい、期待され

ている、神戸市のためになるという点とかみ合わないとは継続しない。誇りを持ってということがそういうことだと思ふ。それを喚起するために一つはちゃんとした目標がおそらく御旗になっていくと思ふが、その下で、やっているということが地域にも浸透して、あの人は地域のためにコミュニティのためにやってくれているということで、自分の得意なことを中心に得意な分野で貢献しようということがあればいい。

スパイラルアップについて、書いているのは個人にできることをやってくださいということだが、市民同士で支え合うことも大事。自分がやりたいことではなく誰かのためにとか頑張っている人を手伝いたいという人もいっぱいいる。そういった方がどう支えるか。企業なども例えば寄付行為でお金の面なら支えられますよとか労働力であればやりたいことを支えるために労働組合などで大体 50 人くらい募ってバスで来てくれるといったことがある。やるのが分かってやりたい人がいたら我々めっちゃ協力できるということがまんべんなくあったほうがいい。

●事務局 写真と図がないことは重々承知しており、4 番の部分の文字数がなかなか減らないことや、ここからターゲットを絞ったときに伝えるものとして何がいいのかということとは概要版じゃないようなことが必要ということは感じている。

単純に緑にどうやったらきっかけを持ってもらうか、入り口みたいなどころや、そこに誇りを思う気持ちというのでも必要で、BEKOBE という、まさにそういう取り組みで積み重ねてきているが、その取っかかりが何になっていくのかということのはもう少し考えていくべきところ。

行政の計画はどうしても中で閉じてしまっていることが多かったが、本来こういう街にしたいということを書いているものなので、それをいかに市民のために分かってもらえるかということに真摯に向き合っていきたいと思ふ。けれどもそういう視点をまだ持っていないところも正直あるので、そこはこちらも伝える側の部局とも連携しながら考えていきたい。

先ほどいただいた SNS のことで神戸市も公式ラインで道路公園に関するお問い合わせというのでもスタートはさせていただいている。ただ難しいところはニューヨークの公園の場合というのはマインドとして一緒にやろうよという気持ちの中でできている部分があるかと思ふが、まだまだその関係性を築き上げている市民の方が多いとは言えない。そういったところでの SNS の運用というのは注意深くやっていく必要があるかと思ふ。緑に関する SNS のユーザーは反応もよくフォロワーも多く神戸市の中でもトップクラスの SNS の運用をしている。都市緑化フォーラムについても基本的に LINE と公園緑化協会が持っている SNS だけで 100 人のうち約 7 割が 1 週間くらいで集まるという状況。すごくアクティブなユーザーも多い。

そういった方々がいる中で、先ほどおっしゃったシルクハットの件ですけれども来年度の担い手の中でそういう共通してみんなが着るビブスやほうきなど同じものを持って一緒に頑張ろうよということへの予算を計上している。何がいいのかというのは決めていくがボランティアという言い方だけでなく緑や公園に関わる人たちの集まりということも少し名前をつけて盛り上げていこうということは考えている。

●天川委員 消防団の消防着は一目で分かる。この人たちに全てがかかっているみたいな昔からの地域のつながりみたいなのがはっきり分かる。

●馬場委員 防犯活動などを表彰する委員会に入っており、毎年地域から推薦された方たちの表彰に関わっている。表彰式に来られた方は晴れやかな顔をされている。もちろんそのためにされているわけではないが、誰かがどこかで評価するというのは大事。交通安全、消防の方などいつもやってくれている方はい

ろんな方から認知されるためにやっているわけではないがすごく励みになっている。できればちょっとカッコいい感じのビブスを。そうでないと学生も着たがらない。

●事務局 渋谷のグリーンバードという団体のゴミ拾い活動だが、すごくちゃんとデザインがされていて、そのビブスも着ていたら様になる。そのあたりはちゃんと踏まえて設計したいとは考えている。

●鳥居委員 天川委員が言われたようにマイスターじゃないですけど、ここにあるアウトプットでみんなが緑博士にというのはそういうのをイメージされているのかと思っていた。なにかしたら博士なのかマイスターかそういう称号や表彰されてホームページに名前が掲載されポイントを貯めるなど、そういうことについてみんなが緑博士にと言っていたかと思っていたがそういう意味ではないのか。

●事務局 認知度を測るときに知っているか知らないかぐらいの話になるときに測りにくい。私自身が造園の専門ではなく木の寿命とかが全然分かっていなかった。例えば神戸市民はソメイヨシノの寿命を知っているとすごく緑に愛着がある都市だなということになる。子どもたちみんなに緑博士になってもらうという面で、クイズをやってみたい。思いは同じだと思う。

●赤澤部会長 海外のいろんな SNS では目標とやるべきことと一致させるということがうまくいっているのが特徴的。ニューヨークでは街路樹 100 万本植えますというのを掲げてそれで 100 万本植える活動をここでこの時期にこうやっていきますよと言ったらそれに合わせてこれやっていい、これできるぞと言ってどんどん応募してきて余裕で 100 万本植えられた。それからどうモニタリングしようかというところにもかなり計画前倒しで実施できたりする。

何をしようとしているかということも一目で分かるどこでしようとしているのかも分かるころとやる気がうまくつながるといい。たまにいいことしようと思って木が枯れてすごく悪いことしたという気持ちになってやめてしまうようなことがたまにある。SNS で市民からの発信や情報提供と市からの共有ということがすごく大事ということがあるので、そういった仕組みを施策で考えていただければと思う。

●天川委員 8 ページの 3 のところで企業ができたことという欄がある。例えば市民のところでは緑のイベントのスポンサーやカーボンクレジットというところだが、例えば企業が参加したときに企業名がそこに入るのかどうかというのは考えているのか。

●事務局 どういう取り組みをしていただくかによって十分あり得る。今年度の緑の取り組みに対する寄付協賛を各社いただき、各社にすると自社のアピールというところも当然あるでしょうから、そのあたりも考えながらしていかなければと思っている。今年度の例で言うと、西区の里山があるような公園の整備に対して寄付いただいた会社の名前については現地に看板を掲げている。

●天川委員 全部統一してほしい。何であっても、例えばロゴとか文字が統一されているとか色が統一されているとか、企業融資、例えばお金を出したとか力を出したとか、それに関して名前を挙げる場合に表示を全部揃えるということをお願いしたい。看板によってはバラバラで分かりにくい。統一されるだけで、これは緑にお金を出したんだな、力を出したんだなというのが分かる。それと、よく安藤忠雄さんがやっているが、全員の名前を出すのがある。看板を出すなら、手を抜かないということも含めて検討いただき

たい。

国際会館の前に木陰を作るということで六甲山から1本木を植えているが、前回は1本でどうするのと言ったところ、やがて連なるかもしれないというお答えはいただいたが、そんなことはあり得ないと思っている。木を1本六甲山から持ってきて植えることのコスト対効果と、それを維持するだけでもかなりかかると思う。

例えば、パラソルを立てて、下にちょっとした椅子、ベンチというか座れるようなしつらえを増やす。それは木が台風で倒れるという話もあるように、パラソルも倒れることがある。かなりきっちりしないといけないし、誰かが必ずそれを畳まないといけない。そういうことを街の緑を管理する人に、例えば、昔ガス灯の火をつけてもらう人がいたように、パラソルを畳む役割の人、みたいなことも決めていく。パラソルに限らず、街の中の緑はどう増やすのかというのに、何のために緑を増やすのか、見た目だけなのか、涼しいためなのか、火を避けるためなのかということを全部関連させて、そのためにはこれも必要だと市民の方に分かっていただくような取り組みにならないといけない。そういう組み合わせみたいなものをうまく連動させながら、人々が街の中でいかに豊かで穏やかで憩いを得られるのかということも視野に入れていただけたらと思う

企業の方や、神戸の方がそれに参加できるようなシステムということも含めて、里山のことは別に考えないといけないと思うが、全然取り組み方が違うと思うので、そういうことも少し視野に入れて、それを踏まえた指針のようなものを文章か何かで織り込めたらなと思った。

●赤澤部会長 広告の件は公的な活動と分かるようにしないと、企業が広告の面でフルスイングするといやらしく見える場合があって、逆効果で企業が損するときがある。ある都市で小さな公園への市民活動の推進を企業が手伝っているが、そこで公園事務所が広告が大きすぎると注意したという。どれだけ大きかったのかと思うが、注意するぐらい大きいものを普通に持ってくるらしい。お互いのために、公的な活動を民間が支援していますということを伝えるためにも必要かなという気がする。

神戸市は小さな規模のパークレットを全国で初めてされて、元町の辺りにも2基くらい残っている。あれは木があるところにパークレットを作って木陰と接点するということがあった。ニューヨークは地面を掘ったら大変なことになるので、コンテナ緑化。1メートル四方の高さも80センチとか1メートルくらいのコンテナでやると、台風さえなかったらケヤキも植わるぐらい。3、4メートルくらいの木陰をしたら、しかも1メートルもすでに持ち上がっているんで、街路樹よりもやりやすく木陰を作ることができる。コンテナだったら企業名を入れやすく、ニューヨークではそういうふうに民間に期限付きで公的な緑を作ってもらおうという方法をよくやっている。宣伝効果も高いため、そういったこともあるのかと思う。ちゃんとした本実装みたいなことだけではなく、社会実験的なところで企業の参画と広告みたいなことも組み合わせできると思った。

●事務局 都市部における植栽については、おっしゃっていただいた通り、いきなり植えるというのは難しいこともあるので、県産材を活用したプランター的なもので、デザインをすべて統一していきたい。ここに行ったらアレがあるということは、神戸の緑の取り組みだなということがとても大切。看板についても、国際会館のケヤキの下に企業名を入れたものを、あのデザインにすべて統一しようとしている。

バスケットゴールの協賛企業の看板についても同じようにしており、基本的に色目も暗めにし、ほどほどに気づいていただけるぐらいのデザインで今のところは進めようとしている。コスト対効果としては確かに1本という話だが、その後にクラウドファンディングをしたが、対象は磯上公園で、目標額400万円の

ところ、410万円ほど集まった。

最初にシンボリックな国際会館の移植のことがあったので、あのことだということも踏まえて獲得につながったのかと。メディアにも取り上げていただき、姿勢を示すという意味でということと、そこに気づいていただければ。基本いろんなところに木陰はあるので、そこに入ったら涼しいよということをもっと宣伝していかなくてはいけない。10月ぐらいにインスタのキャンペーンをやってみた。いい木陰の写真ということで、今あるものにかに気づいていただくかということもすごく大事と考えている。

●天川委員 神戸市民ってワーツと出るのが嫌なんですよね。どちらかという、「あ、これ神戸らしいデザインだ」みたいなのが多分好きだと思う。そういうところが、昔神戸に行ってみたくて、住みたい、神戸が大好きということが伝わっていたのに今は違う。本当の神戸にいる人が好きな神戸というものの見直してみたいなことが、多分キーになると思う。そこからのスタートの方が、市民にも見られやすいし、わかりやすいし、これが神戸という、そういうことだと思った。

●松下委員 国際会館の前の木を私もこの間ずっと見ていたが、なぜこの木がここに来ているのかがもっとわかればいいのにといいのは思った。木が六甲山から来ているということはわかったが、何年か前にメリケンパークに世界一のクリスマスツリーが来て、木がかわいそうとか大炎上した。わざわざ六甲山からここに持ってきたということは、木にとってもちゃんと手入れをすることが必要、山のためにも必要。街にも木が必要ということで来ているということが分かるようにしたらいいのにといい思った。

資料4の8ページの目標の整理のところ。読んでみると、例えば個人ができることで人に聞いてみるといったことがつらつらと書いてある。その中に社会的意義が感じられることが足りない気がする。これをするから、街が良くなる、緑が良くなるのがこんな効果を出すってということではなく、自分のためになることしか書いてないような気がする。その視点を入れて、それをみんなでやったという感じを持てるようにしたほうがいいという気がした。

●赤澤部会長 何かのためにやっているという、8ページの一番左下に、公園の管理に参加するみたいな、こういう書き方をすると、行政の代わりにやっていないかというニュアンスに捉えがち。意義が理解されたら、手入れをして、木を育てる、長く使えるようにする、切ってしまった木をベンチに使う、ササクレを削るなどがいかに大事なことが伝わってくると思う。それをお願いするというふうなところがニュアンス的にも具体的な例示のところでもやった方が分かりやすいかもしれない。

考え方の前提としては、循環の大切さみたいなところを前の方で書いておき、取り組みとして、いろんなところが里山だけで考えたら荒廃してきているし、都市だけで見たら緑足りないし、みたいな課題を組み合わせていくと、実は循環させたらみんないいよねという。街路樹もいつかは切らないといけない時が来るけども、切ってさよならじゃなくて、どこかでまた新しい人生を歩み始めるということになると、木を切ることに抵抗がなくなるというか、適切なことであるというようなことでの理解が進んだりすると思った。

●赤澤部会長 今まで地味だったところ、つまり維持管理もすごく意義のあることが前提とすれば、それを支える仕組みがあると思う。ある市で議論しているのは、県民緑税とか、緑化に税金を使うという仕組みは条例上あるが、維持管理に使えない。街路樹だけで言えば、植えるところには使えるが植えるところがない。むしろ切らないといけない。一番困っているのは、適切に管理して健全に育成するのが一番大事

で大変だが、そこに財源を回すことができない。それは神戸市しかできない。市民が頑張ってもそんな財源をやる仕組みを作れないので、そういった制度的なところはどこかで書いておくと、後々それが施策としての根拠になるような計画になるかと。

●赤澤部会長 あと市民緑地認定制度、ミズノさんが海沿いの方でされているが、そういった市民の民有地を公園みたいに公開しようという制度、あれは緑の基本計画で緑化重点地区に指定しておかないとできないはず。補助金がもらえない。そういったことを期待して、一緒にやっていくことを目標とするならば、制度でおさえていく。緑の基本計画で抑えるのは緑化重点地区と特別保全地区という2つは、きちんと制度的に指定しておかないと、後々ついてくるものはついてこない場合がある。そこも抑えながら、みんなで作っていける緑化とか維持管理を頑張ろうということの下敷きにできればと考えている。

●馬場委員 施策のご意見がでたと思うが、緑も様々あるし、例えば本編にも対象となる緑という4ページの下に書いてあるが、これでは想像できるかと。里山もあるし、郊外部もあるし、街の中心部もあるし、だからそれが共通することもあるが、里山とか六甲山だったら、保全活動に対して個人とか組織で、住民団体でやるかという話、あるいは街なかだったら、緑をどうやって活用とか利用するっていう意味合いも大きい。だからそこを、もう少し想像できるように。市民さんが読んだときに、そこまで分かるかなというのがあった。

さっき部会長が、空間の効果って書いてあるのに、空間が全然出てこない。もう少しイメージできるようなものが初めにあるといいと思う。

●赤澤部会長 初めに鳥瞰図的なところは、別の市で1年か2年前に作ったが、市民だったら見たら公園の小さな絵でも、何公園って分かるくらい特徴を捉えて書いているということですよ。神戸市はもっと広くてなかなか大変だと思うが、やっぱり田園地域とニュータウンと都市部と六甲山というのはいま書き換えるような気がするし、その中でも個性的なところは、イラストレーターの方であれば、書き分けられるというのは経験としてある。空間のイメージを持ったらリアリティも出てくる。

●鳥居委員 神戸市が描いている50年、100年後の緑が豊かな街にするためにこういうことをしたい、ということを市民の方に、例えば六甲山であれば、これでは不十分なのか、もっとプラスなのか、維持なのかという部分について、神戸市としてどこまで目指しています、そのために市民の皆さんと一緒にやっていきたいと思いますというのがイメージできる図があれば、自分たちもやりたい、積極的に加わりたいというのが出てくると思った。それがおそらく神戸の特徴で、六甲山の麓とエリアごとで違う絵が出るのが一番いい気がした。

●赤澤部会長 他は海ですね。水もあるので、川や海っていうのも含めてということがあれば良い。

スライドの8ページまで見ていただいている感じがあって、それのおさらい、目標を設定しましょうというのが9枚目、10枚目のポイントだと思うが、「知る」「触れる」「深める」が、機会の増加、関係人口の増加、新たな機能・質の向上というようなところで目標を設定して、アウトプットとアウトカムを示したという感じ。

●馬場委員 8ページの行政がやっているというのがあって、10ページに神戸市がやるべきこととあるところがあるが、8ページの方は一般的にという話で、10ページは神戸市に置き換えるというふうに考えたらい。

●赤澤部会長 このあたりの構造が、10ページだけ見たら神戸市がやる計画に見える可能性があると思う。神戸市がやったらみんな緑博士になりますねという感じ。できるだけ全体の施策はフラットにして、ポイントとなる重要施策は神戸市がリードしていくとか、協働でいろんな事業をやっていくが、それを支えるようなサポートの役割にあたるようなところを神戸市が優先的にというか、神戸市がやりますよということが伝わるという。

●馬場委員 重複もあるのでわかるが、一般的な話と神戸市に落とし込んでというのと同じようなことが書いてある。言葉が微妙に違っていたり、より具体的になっていたりしているところもある。全体構成としてわかりやすいようにしていただきたい。

●赤澤部会長 今後作業されていくと思うが、この骨子案を見ると、メインは8ページ。行政がやっていくように見えるという話もしたが、8ページではみんなやっていくと。それぞれの主体がやっていくことを提示するということがメインになる感じか。しかし16ページ目の計画の目標を見ると、神戸市がやるべきこととアウトカムとなっている。重複しながらニュアンスが違ったりしているというところがある。

●馬場委員 方針と目標の設定について、なかなかこの区別が付けにくい。一応8ページが方針で10ページが目標の設定とこれより具体的に目標として落とし込んでいるということか。

●事務局 10ページは具体的施策例として挙げたものと捉えていただけたら。確かに表現重複している部分でもあるのでそれは資料上の作りをまた考えていながらやっていきたいと思えます。

●赤澤部会長 8ページは市民編に出す第1章から第4章の最後のイメージか。目標としてこういった考えがとりあえずあってこんなことを目標にします、みんなでやってみようというような。目標の10ページではそこから下の行政編か。実践編のところでは具体的な目標を定めて細かな施策をやっていきますよといったところの頭に来るようなイメージの目標、施策の目標みたいな感じのイメージなのか。

●事務局 そうです。赤澤部会長が言っていたような作りかと。

●天川委員 はっきり神戸市としてやれることみたいな書き方がいいかもしれない。行政というふわっとした書き方じゃなく神戸市がやるべきこととしてはっきり書いた方がいい。ここは市がやってくれるんだな、それに対して自分たちは何ができるんだろうという読み方になると思う。16ページに関してはアウトプットとかアウトカムが分かりにくく意図が分かりにくい。

●事務局 神戸市が何をやるかが左側でその結果どういことが生じるかというのが右側。

●天川委員 言葉遊びじゃなく一目で分かるほうが捉えやすい。16 ページに関しては神戸市がどうしようという部分で、その前の 12,13 ページに関しては市民との連携について書いているということか。言葉ではっきり伝わるほうがいい。

●赤澤部会長 12,13 ページは一般論的に書いているが神戸市がやっていくことと、中身についても神戸市らしさというものが出るような表現に具体化してもいいかもしれない。16 ページは要再考。アウトプットについて海外のやつなら数値が並ぶ。何が増えますとか何人増えましたとか。神戸市のこの目標でそれをやったほうが分かりやすい。

●赤澤部会長 これとこれだったら今まで考えてきたこと全部につながるという集約というかロジカルモデルを作って3つに絞ったというようにできるかどうか。今ここでどうこうというのは難しいし神戸市でもこうしますというのはすぐに答えられる規模ではないので次回までの大きめの宿題ということになるか。次回は後半のイメージが出てきたりするのか。施策はもうちょっと先、5章6章あたりか。

●事務局 そのあたりも作っていききたい。

●鳥居委員 次回だと思うが検証をどういうふうにするのか。例えば数値目標があればそれに対して、例えば緑被率を何パーセントにします。じゃあ達成できたからいいって言うが、抽象的だとその検証はどういうふうにするのか、それはここで考えてくださいということかもしれないが何を以てするか。例えばアンケートの回答とするのか。

●赤澤部会長 以前指摘があったが満足度はやめましょうって言っていた。だいたい満足度になってしまうというのがあるが、具体的なやるべきことを書いた方がいいというご意見をいただいた。それを封じられるとなかなかどうしたらいいのかというのはある。

●事務局 数値目標で言うと先ほどの満足度はまさにアンケートを取っていいと思うという項目が目標になるのかということもあって、例えば正答率について、木の寿命を知っている人たちが今は20%だが40%になるとかそういうことは一定考える必要があるよね、という話をさせていただいているのと、SNSで言えばインプレッションという今どれだけ見られている数があるのかというのはよく目標値も上がるしやはり数というものは一定必要だろうなということは今議論をさせていただいている。それがふわっとしたアンケートでいいのかどうかということは今そこも含めて議論している。

●赤澤部会長 PDCA 的な考えで言うとそういった進行管理ができやすくしやすい基準でずっと変化を追うということは大事だが、我々が思っていなかったことが発生、イノベーションが生まれることがある。それを見て活動がまた増えていくとかつながりがあるということで、どこかで数値に上がるかもしれないが、そこは進行管理を第一目的にしなくてもいいような気もする。行政的にそれでは予算が取れないと承知はしているが、庁内でもいろんな意見をいただきながら最後はちゃんと抑えないと計画のおしりが決まらないのでこれもちょっと難しめの宿題としたい。

●事務局 この資料4の最後の1枚は、スパイラルアップの例を他にも用意しており、里山だったり、森林だったりの関わり方というのは、きっとあるだろうということで、ひとまずこの資料5の下にあるこのスパイラルアップは、あくまで一例として公園を取り上げたものにすぎない。いろんな関わり方があるだろうということで、そういうパターンをここで載せている。

●赤澤部会長 議論としては、この一番わかりやすい2、3個を掲載しましょうという話にするのか、イメージはできるだけ多く伝えていって、いろんな可能性をみんなでやりましょうというふうにするのかというのがあるかと思う。それが先ほど鳥居委員がご指摘のような検証の仕方ですね。それを達成して結果的に大きな緑が何%増えたとかいうところだけで検証していくのか、これら全部をずらっと検証してやるのかどうかかわからないが、どういうことをするのかということになったらポリシーに関わってくるのかという気がする。私はなんとなくいっぱいあるというのがいいなという感じはした。

●事務局 伝え方でも、リーフレットにしてしまうとどうしても一例みたいになってくる。今で言うと動画であったりサイネージという手段もあるので、何々編みたいなことでの伝え方も出てくるのかなというふうに思う。

●天川委員 14ページの公園と森林というのは分けてあるが、これはどうなっているのか。地域、団体、個人と企業編という、整理の仕方について統一した方がいいではないのか。14ページの上と下と、関連があるのかなのか分からない。14ページの公園とか森林になっているように、一目で分かるような区別の仕方も、例えば里山編とか、田園編とか山岳編とか、市街地編とか、そういうふうに分けた方がずっと絵が生きてくるような気がする。

●事務局 図を全部並べてしまうと、間違い探しのようになってしまうので、これをプレゼンするときには、一つのリーフレットに一つの絵ぐらいで、例えばというリードをつけるとか、そういう見せ方になってくる。

●赤澤部会長 13枚目が全体的なもので、それを公園とか市民とかで、イメージしやすい場所ごとに分けてみたら、どう変わるかということがある。15、16ページがそれだけでは網羅できない余白の部分かもしれない。可能性というか、今まである活動じゃないことも、やっていいよ、できますよとか、やっていきましょうねみたいなのも提示するのかなと理解していた。

一番最後のその他のところというのは、未来のことで難しい。これが大事か、緑の興味がある人は見てくれるけども、それ以外の他のことに興味があって、緑を使おうと思ってくれる方というのが、なかなかキャッチできない。そういう意味では難しいが、チャレンジして検討いただきたい。

●事務局 次にらせるかはわからないが、こういうテイストでやりますみたいなのをいさせていただいたほうがいいですね。それをイメージして見てくださいというような形を考えたい。

●赤澤部会長 最終に近い時に出すと修正が大変だと思って意見がしにくいので、エキスとかポンチ絵の落書きの段階のものをいさせてもらったほうが意見を出しやすいと思う。

おおよそ、特にこの後のスライドで、最終的には本編ができますよということ、それぞれ骨子の最初か

ら、緑の効果というものを示して、課題や目標などを踏まえた方向性、取り組みなどを示しながら、個人・地域団体・企業・行政が出ていくことを目標的に定めていく。およそこの辺りまでが市民編の2。そこから先、いろんな目標を細かくしていったって、今後アウトプット、アウトカムなども設定しながら、詳しくは次回以降にお示しする。

その中で大きく何回も出てきたのが最初の段階で、空間をイメージできるような大きな神戸市の目標とするような姿というものがビジュアルであればいいなということ。そこにいくつもの意見が入って、対応できるようなものが今後必要かなということが大きくあった。あとはそれぞれ具体的に、特に市民の方、企業の方から実施していく。やる気、誇りを持って、やりがいを持って、地域から求められているという実感を持って、緑に関わっていただけるようなニュアンスもそうですし、市民の行動の領域もそうかもしれないし、最終的にはそれをさせる施策も検討しないといけないかもしれないが、みんなでやっていくということを基調にしながら、これから最後を詰めていきたいと思いますというような、大きな括りでいうと、そういう意見をいろいろいただいたと理解している。